

オーストラリア（豪州） 豪中銀が2016年8月以来の利下げを実施

- 豪中銀は大方の予想通り、2016年8月以来の利下げ実施
- 成長率は下振れリスクがあり、追加利下げが見込まれる
- 市場は断続利下げを織り込んでおり、豪ドルの上値重い

■ 豪中銀が2016年8月以来の利下げ実施

4日の金融政策決定会合で豪中銀は政策金利を0.25%引下げ1.25%としました（図1）。GDP成長率が鈍化するなかコアインフレ率は目標レンジを下回っており、足元の失業率は上昇しています。5月に豪中銀は経済見通しを下方修正し（図2）、最近の講演でロウ中銀総裁は利下げの可能性に言及したため、利下げは予想されていました。

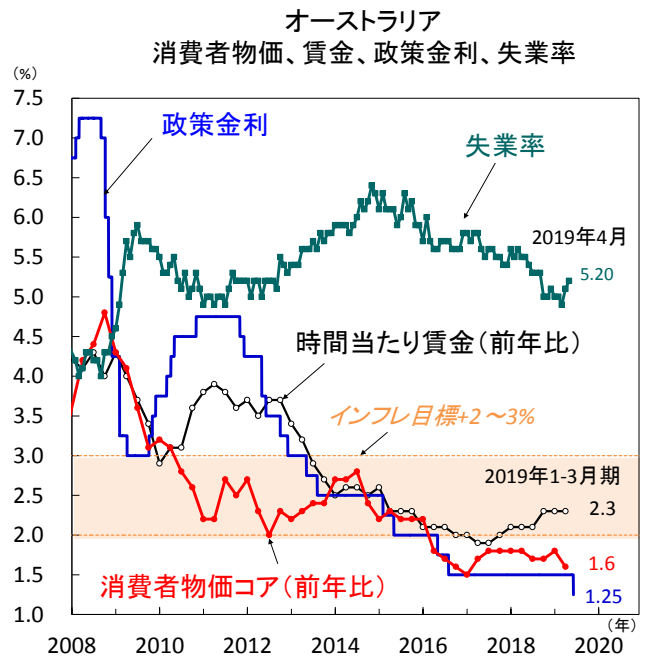
■ 焦点は追加利下げのタイミング

利下げの背景として世界情勢の不確実性や国内の成長率・インフレ率鈍化への対応があげられました。他方、追加利下げは明示されず、労働市場の動向次第で判断する姿勢が示されました。住宅価格下落の影響もあり個人消費は鈍化しており、5日に公表される1-3月期GDPは弱い結果が予想されます。成長率が下振れる懸念があるため、8月にも追加利下げが実施される可能性があります。

■ 金融市場は年内あと2回の利下げを見込む

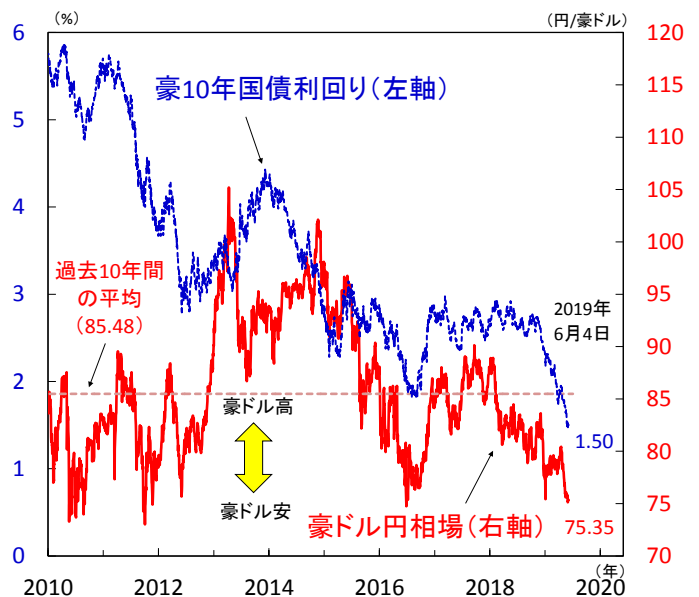
金融市場は年内あと2回の利下げ（1.25%→0.75%）を見込んでおり、豪ドルは下落基調にあります（図3）。豪10年債利回りは米金利よりも低下幅が大きく、当面は上値の重い展開が続くでしょう。他方、米利下げ観測で米ドルも軟化しており、米中貿易問題の改善や中国の景気刺激策拡大を受け豪ドルが持ち直す可能性もあります。当面は豪ドルの方向性は出難いとみています。（向吉）

【図1】インフレ率が鈍化するなか豪中銀が利下げ



【図3】利下げ観測が強まるなか豪ドルは弱含む展開

オーストラリア（豪）ドル相場（対円）と長期金利



【図2】豪中銀は成長率、物価見通しを下方修正

オーストラリア 中銀の経済・物価見通し

(単位：%)

		2018年 12月	2019年 6月	2019年 12月	2020年 6月	2020年 12月	2021年 6月
実質 GDP 成長率	最新(5月)	2.30	1.75	2.75	2.75	2.75	2.75
	前回(2月)	2.75	2.50	3.00	2.75	2.75	2.75
失業率	最新(5月)	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.75
	前回(2月)	5.00	5.00	5.00	5.00	4.75	4.75
消費者物 価上昇率 (総合)	最新(5月)	1.80	1.75	2.00	2.00	2.00	2.00
	前回(2月)	1.80	1.25	1.75	2.00	2.25	2.25
消費者物 価上昇率 (コア)	最新(5月)	1.80	1.50	1.75	2.00	2.00	2.00
	前回(2月)	1.80	1.75	2.00	2.00	2.25	2.25

注）四半期金融政策報告（2019年5月）を基に作成。赤線内は前回からの変更箇所。

出所）オーストラリア中銀より当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会